

老いてもともに助け合う

男女共同参画推進座談会



市男女共同参画推進懇話会では、11月13日に「男女共同参画と福祉」をテーマに座談会を開催し、市長と、目ごろから男女共同参画について関心を持ち積極的にかかわって見える委員のかたにお話いただきました。
市民課人権・生活係 ☎1126

市長 みなさんお忙しい中、座談会にお集まりいただきありがとうございます。

社会において男女共同参画はとても大切であると考えています。特に日本では、男性・女性の固定的な役割が強く、浸透させていくことは容易ではありません。しかし、そういったさまざまな問題をクリアして、男女共同参画を進めていかなければならないと考えています。

本日は、みなさんのご意見を聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願います。

今井会長 それでは、事前アンケートの結果、一番多かった「老いてもともに助けあう」というテーマでお話を進めていきたいと思っておりますので、ご提案をお願いします。

上村委員 年を重ねていくと、どうすれば健康に気を付けて生活していけるのかと考えます。わたし自身は、趣味を持ち、規則正しい生活を送るよう努めています。また、ストレッチなどで体力をつけるようにもしています。趣味や体を動かすことで、心と体をリフレッシュし、健康を維持したいと思っています。

木田市長
本計画の重点分野に、「生涯を通じた女性の健康支援」とあります。規則正しい生活の中から健康を維持し、活力ある毎日が過ごせるよう努力していくことも大切ですよ。



今井 縁会長
意味で、法律に基づいて施設の利用範囲を判断してまいります。わたしの個人的な裁量で、目的外の使用は認められません。ただ、きちんとした目的と姿勢を構えた中で、これは補助対象、これは対象外と決めれば利用可能な範囲も出てくると思います。



藤本委員 わたしは「しおさい」がオープンしたころ、講師として派遣されていました。引きこもりがちな一人暮らしのかたを中心に、お茶とお華の講座を開いていましたが、みなさんの姿は、とても生き生きしていました。このときみなさんとの交流を通して得た体験が、今のわたしの福祉の原点になっています。

今井会長 今ある物をどうしたらうまく活用できるのかというところを探っていくことが、年齢に関係なく、男女が生き生きと安心・安全に生活していくことにつながっていく

上村澄子委員



くのだと感じました。そして、地元のかたも、できることは自分たちで行い、市と一緒に協力できる、また受け入れてくれる体制ができれば、協働という形で連携が深まっていくと思います。

藤本委員 人が生まれ育っていく上で、最初に植え付けられたものは変わらないのかなと思います。わたしは、お年寄りと接するときに、「男と女は一緒だよ。」と何度も説明するのですが、理解してもらえないんですよね。どうしても、男の人は偉いという感覚があるんですね。だから、介護が必要になったときも女性は男性の世話をしますが、逆の場合にしてもええないというところが出てくるかもしれません。

年を取ってからは、夫婦やご近所がお互いに助け合っていくのが、理想であると思います。そうすることで、より

藤原朋代委員



よい老後、寝込まない社会を作っていけると考えています。**市長** 年代に応じて男女共同参画の受け止め方も随分違ってきます。男女の差は、すぐには解決できない難しい部分もあるでしょうが、これからは、今までとは違う男女の時代が来るのではないかと思えますね。

藤本委員 男女共同参画と言わなくてもいいような世の中になっていくのが理想です。**市長** そうですね。新しい鳥羽市独自のアイデアで、男女共同参画をもっとアピールできるような形で進めていくことがこれからの課題です。

水谷委員 確かにお年寄りには男尊女卑といった考え方の中で育ってきていますから、しよがな部分があるかと思えます。ただ、両親を見ていると、母はいつまでも父が現役でいてほしいという意識が強いように感じます。いつも

藤本真理子委員



父を立て、父が元気でいられる方法を次から次へと考え出していきます。万が一自分に何かあったとき、父が困らないように考えているんですね。また、父は母のことを思って、優しくいたわりの言葉をかけるんですよね。それが自然な姿なんです。たとえ普段はけんかしていたとしても、年を取ってからは仲良くしていきます、そんな夫婦になっていく、それが自然な形の男女共同参画なのかなとも感じます。

市長 年を取ってからもお互いに助け合い支え合う、それは夫婦だけではなく、どんな人間関係にも大切なことだと思います。

大山委員 生まれ育った環境というのが、随分影響するのかなと思います。わたしは母から、男の人は立てなさいと言われて育ちました。でも、

水谷伸子委員



現状は、子どもが3人いて夫婦で仕事をしている、夫に手伝ってもらい、お互いが助け合っています。**市長** わたしも、今の男女共同参画の考えとは正反対の中で育ちました。しかし、研修でアメリカに行ったとき、堂々とわたしの上司ですと女の人が紹介される場面がありました。それが平気で普通な感じです。日本とは違うなと感じました。作られた性に縛られた考えは、社会がそうしてきただけであって、男の人

も女の人も一緒だと思います。**水谷委員** 市役所内における女性管理職の登用は、まだまだ低いように感じますが、**市長** 現在、鳥羽市の女性管理職は5%ですが、研修などサポート面でも充実を図っていますので、これからは、女性の登用率も上がってくると思っています。

も女の人も一緒だと思います。**水谷委員** 市役所内における女性管理職の登用は、まだまだ低いように感じますが、**市長** 現在、鳥羽市の女性管理職は5%ですが、研修などサポート面でも充実を図っていますので、これからは、女性の登用率も上がってくると思っています。

大山咲子委員



市長 わたしは、男が偉いとも思わないし、女のの方が度胸があるなど思うこともたくさんあります。お互いが認め合い、助け合い、支え合うことで、みんながほほえみながら生き生きと暮らす社会が実現できると信じています。それが、「老いてもともに助け合う」ということにつながっていくと思います。

今井会長 やりたいときに女性だからできない、男性だからやらなければならぬということではなく、それぞれの人がそれぞれに生きる場所をきつちりと確立できる社会が、男女共同参画ということになってくるんじゃないかと思っています。また、こういった機会を持ち、男女共同参画の輪が鳥羽市中に広まっていけばと願っています。

本日は、どうもありがとうございました。